

マークシート方式の導入の成果と課題

■ OMRによる読み取りの実態■

1 記号選択式問題：OMRによる読み取りに要した時間

	国語	数学	英語	社会	理科
時間	55分	40分	45分	39分	48分

2 記号選択式問題：OMRによる読み取りエラーの状況

	国語	数学	英語	社会	理科
記号選択式問題	11	—	15	15	19
受検者数	7,657	—	7,657	7,594	7,594
読み取り件数	84,227	—	114,855	113,910	144,286
エラー数	14	—	9	10	16
エラー発生率	0.017%	—	0.008%	0.009%	0.011%

3 受検番号の読み取り：OMRによる読み取りエラーの状況

	国語	数学	英語	社会	理科
受検者数	7,657	7,657	7,657	7,594	7,594
エラー数	46	44	42	36	43
エラー発生率	0.601%	0.575%	0.549%	0.474%	0.566%

■ OMRによる読み取りは各教科約50分間で終了

■ 読み上げ方式（紙による採点）との照合の結果、正しくマークされている解答を、OMRが誤って読み取るという異常はなし

■ 記号選択式問題、受検番号の読み取りエラーは受検者のマークの仕方が一因

【問題におけるエラーの内容】

- ・ 消しゴムのくずによる影響で「2箇所マーク有り」と判断
- ・ 受検者のマークが薄く、「ノーマーク」と判断

【受検番号におけるエラー内容】

- ・ 受検番号のマークミス、マーク忘れ

マークシート方式モデル実施校の校長対象アンケートより（20校）平成27年3月実施

○：成果 ●：課題

〔記号選択式問題（OMRによる採点）〕

- 自動的に採点が終了するため、採点時間が大幅に短縮

- OMRによる採点の正確性から、読み上げ方式による採点・点検は不必要

〔記述式問題（パソコンによるデジタル採点）〕

- 同じ問題を連続して採点することは、採点誤りや採点基準のブレを防ぐことに有効

- 受検者が多い場合には、記述式問題の採点をパソコンを使ったデジタル採点のみで終わらせるのは困難

- 部分点のある問題は、表示される採点基準をクリックすることで点数が自動計算されるため、得点集計の誤りの防止に有効

- 全都統一の採点基準は、各学校の実状を踏まえた採点に不向き。受検者の多様な解答について、逐一、都に判断を求めるのは非現実的

マークシートモデル実施校の教務担当主幹教諭等対象意見交換会より（20校）平成27年4月実施

○：成果 ●：課題

〔記号選択式問題（OMRによる採点）〕

- OMRによる採点の誤りは皆無

- 受検番号のマークミスやマーク忘れ、一つの問題のマーク欄に次の問題の正答もマークするダブルマーク

〔記述式問題（パソコンによるデジタル採点）〕

- 部分点の根拠を残すことや誤字・脱字の確認の点で、印刷した問題ごとの解答一覧での採点後にパソコンで結果を入力する方法が有効

- マークシート導入の効果の観点から、全て記述式である数学についても、数値や式で解答する問題をマークシート形式にすることが必要

- デジタル採点が適した問題と、紙で採点を行ってから採点結果をパソコンで入力することが適した問題があるため、パソコンと紙を併用した採点業務が効率的

- 記述式問題を残すのであれば、記述式でないと受検者の力をみることができない問題に限定することが必要

中学校長対象アンケートより（53校）平成27年3月実施

- ◆ 「マークシート方式が全面実施となった場合に、特別な指導を行うか。」に対して、「行う予定はない」の回答は35%

高校1年生対象アンケートより（マークシートモデル校入学生718名）平成27年4月実施

- ◆ 「中学校などで、マークシート方式に関する指導を受けましたか。」に対して、「受けていない」の回答は56%

【参考】都立高等学校長対象アンケート結果より（186校）平成27年3月実施

○：成果 ●：課題

- 「学力検査翌日と翌々日の2日間については、生徒を登校させないこととする。」「採点・点検業務の詳細を定めた『採点・点検実施要項』を新たに作成する。」などの評価が高かった。

- 「新たな採点・点検方式により今までより時間がかかり4日間でも時間的に厳しい。」「各学校の受検者の実態に合った採点や効率的な採点業務を行う上で部分点の基準の示し方を改善すべき。」という意見が多かった。

- 「2系統による採点・点検」「合否の入れ替わりという重大な事態を防止するボーダーライン点検」の成果についての意見が多かった。